

15. 国粋主義

○**国粋主義**…日本の伝統の中で成長し、発展してきた歴史・文化などを他国と比較して優れたものであるとし、その維持や発展を図ろうという思想。政府の欧化政策による極端な**欧化主義**や西洋一辺倒の風潮への反動として、明治20年代に**三宅雪嶺**や**陸羯南**などによって主張された。また、明治初年の**廃仏毀釈**(神仏分離)も、日本の独自性を強化するという点で影響を与えた。日清戦争以後、排外的要素と国家至上的要素が強大化・変質し、昭和の超国家主義・ファシズムに結び付いた

・**欧化主義**…上流階級中心に展開された、欧米の制度や風俗・習慣などを盛んに取り入れ、模倣しようとする風潮。極端な西洋崇拜は、国民の反感を招き、反動として国粋主義があらわれた

□**三宅雪嶺**[1860-1945]明治～昭和期の評論家。日本が西欧文化の一面的模倣に走っていることを戒め、西洋思想や近代化を盲目的に排斥するのではなく、日本固有の精神的・物質的長所を明らかにし、国粋保存を主張した。民族の歴史的使命を自覚し、民族の個性的価値である国民性を認識して、その実現に努め、国家の独立を重視すべきだと説いた。[著書]『日本人』(雑誌)

□**陸羯南**[1857-1907]明治の評論家。武家に生まれ、のちに官吏となるが、極端な欧化政策に反対して官を辞す。日本の国情や伝統的美点を保持しつつ、自主的な改革をすすめ、国家の独立を目指すべきだと説き、国民主義を唱えた。[著書]『日本』(新聞)

□**志賀重昂**[1863-1927]明治・大正期の地理学者・政治家。西欧諸国の植民地収奪の実情を知り、日本の独立の危険性を痛感する。衆議院議員当選後は、アジアに対しては帝国主義の立場に立つ。日本各地の山岳や自然の特徴をまとめた『日本風景論』は、啓蒙的地理学の普及に大いに役立った

□**西村茂樹**[1828-1902]明六社のメンバー。極端な欧化主義に反対し、『日本道德論』を著す。国家の基本を儒学の基本の道德に求めつつ、儒学に欠如している進取の気性および尊卑の別の強調性を補うものとしての西洋哲学を取り入れた**国民道德**を説いた。また、**教育勅語**が生まれる気運も育てた。[著書]『日本道德論』(国民道德は儒教を根幹として、西洋哲学をも取り入れて再建すべき)

・**教育勅語**…我が国の教育の根幹や国民道德の基本原則をあらわした勅語。儒教道德(忠孝)が根本であり、万世一系の天皇家中心の国家的統一が強調されている。第二次世界大戦の終結まで、日本国民に強い教育・思想的影響を与えた

□**井上哲次郎**[1855-1944]明治・大正期の哲学者。キリスト教を反国体的だと批判、天皇制に基づく国家主義を主張

□**徳富蘇峰**[1863-1957]評論家・歴史家。西洋の単なる模倣で、上流階級のみを欧化主義(貴族的欧化主義)に反対し**平民的欧化主義**を主張。若くして自由民権運動に傾倒し、のちに『国民之友』(雑誌)を発刊、平民主義を唱えた。また、1890年には『国民新聞』を発刊し、近代的な産業社会へ進むべきだと説いた。日清戦争後から国家主義的に傾く

[雑誌]『国民之友』(蘇峰の設立した民友社発行の雑誌。自由・民主・平和を主張する平民主義を主軸とするも、蘇峰が国家主義に傾倒して以後人気を失い、『国民新聞』に吸収され廃刊)

・**平民主義**…蘇峰が明治20年代に『国民之友』で主張した考え。文明開化。欧化主義が貴族・官僚中心であると批判し、一般大衆の立場からの、下からの西洋文化の受容&近代化が肝要だと説く

○アジアへの視点

□**岡倉天心**[1862-1913]明治期の思想家・美術指導者。「アジアは一つ」との自覚から東洋・日本の美術と思想を世界に紹介し、その豊かな可能性を説く。

センター問題に挑戦! No.15 (2003年追試) [や・難]

「アジアを共通の文明圏として捉える思想」に関連して、次の文章を読み、その主張に合致する考え方として適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

アジアの兄弟姉妹よ！我々は、様々な理想の間を長い間さまよってきた。さあ、再び現実に目覚めようではないか。(中略)我々は結晶のような生活を誇りとして、互いに孤立してきた。さあ、共通の苦難と言う大洋の中で溶け合おうではないか。

(岡倉天心『東洋の目覚め』)

- ① 朝鮮、中国、ロシア、英国などの国々を貧富強弱で区別するのをやめ、公平無私の眼をもてば、我々は世界の大勢を観察できる。
- ② 究極と普遍を求める愛の広がりこそは、共通の思想的遺産であり、我々を欧州から区別できるものである。
- ③ 科学的社会主義が野蛮な軍国主義を滅ぼし、四海同胞の世界主義が略奪的帝国主義を一掃することができる。
- ④ 民権は根本原理であり、自由平等は大原則である。百の帝国主義によっても滅ぼされえないし、まして欧米の専有物でもない。

[No.14の答③ 平民社は幸徳秋水]